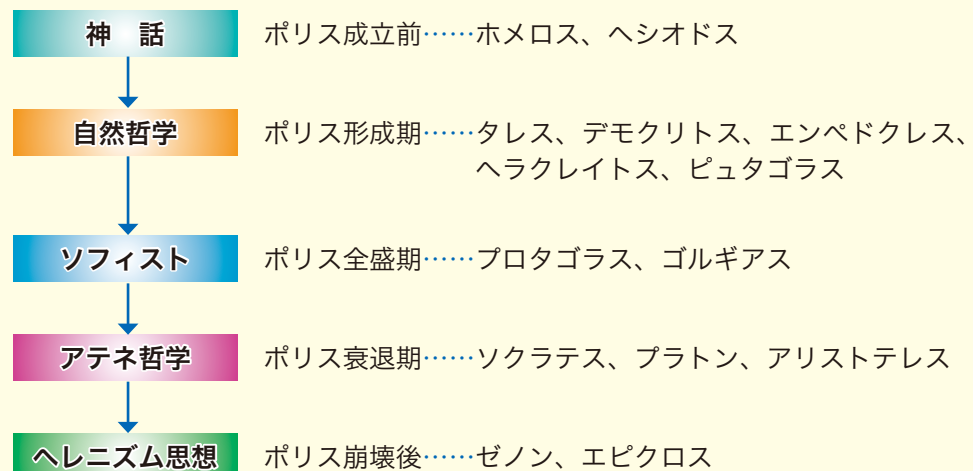


I-1 古代ギリシア思想

概観

- ▶ 自然哲学……神話的世界観を脱して、事物や現象の合理的説明を試みる
- ▶ ソフィスト……普遍的真理の否定 → 善悪の基準を個人の感覚に置く
- ▶ アテネ哲学……普遍的真理の肯定 → 「ポリスのために生きる」
- ▶ ヘレニズム思想……「個人はいかに生きれば幸福になるか」を問う

思想と人物の流れ

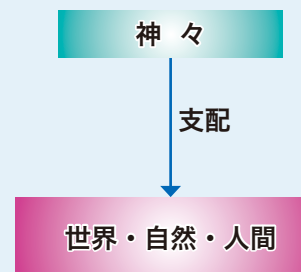


用語解説

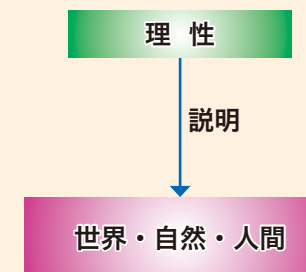
- **ポリス** …… 古代、「ギリシア」という名前の統一国家はなく、ポリスと呼ばれる1000以上の都市国家の集まりであった（アテネはその一つ）。ポリスは城壁に囲まれた中心市と、その周辺の田園地帯から成る。政治的には、それぞれが完全に独立していた（江戸時代の日本で藩だけがあって、幕府がないような感じか）。
- **ヘレニズム** …… ポリスが崩壊した後、ギリシア文化と西アジアのオリエン特文化が溶け合って形成された文化。ポリスや民族の枠にとらわれず、個人主義的な色彩が強い（「わしは〇〇人である前に、一人の人間や」みたいな）。

1 神話から哲学へ

神話



哲学



選びがちな誤り選択肢

ヘシオドスが記したとされるギリシア神話『イリアス』の神々は、知恵よりも武勇を尊ぶ存在として描かれている。

正しくは…

『イリアス』はホメロスの作とされる。その神々は、武勇よりも知恵を重視することが多い。

Notes

2 自然哲学

Key Point

万物の根源（アルケー）を探求する

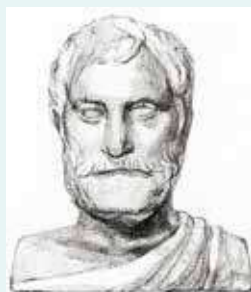
用語解説

□アルケー ……人間や自然、世界など万物の根本にある存在。あるいは万物を司る原理。

タレス

check ■■■■

- アルケーは水
- 「最初の哲学者」と呼ばれる



デモクリトス

check ■■■■

- アルケーは原子（アトム）
- 世界は原子（アトム）と空虚（ケノン）から成る

用語解説

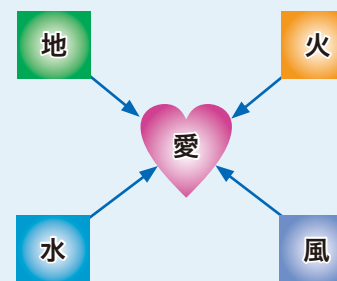
- 原子 ……デモクリトスが想定した、これ以上分割できない最少の物質（本当は陽子や電子、中性子に分かれるが、それが判明するのはずっとずっと後の話）。
- 空虚 ……原子が移動する空間。原子以外には何も無い。

エンペドクレス

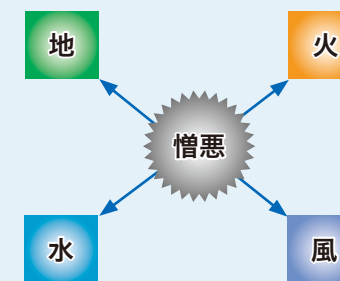
check ■■■■

- アルケーは地・水・火・風
- 4要素が愛によって結合、憎悪によって分離

■エンペドクレスの四元素 ①



■エンペドクレスの四元素 ②



ヘラクレイトス

check ■■■■

- アルケーは火（のように変化する）
- アルケーは変化・対立・調和を永遠に繰り返す

▶ 「万物は流転する」
「我々は同じ川に二度と入ることはできない」